

感狀を與ふ。

【得江文書】

三八二

最前馳參御方、致軍忠之條尤神妙、彌可被抽戰功之狀如件。

觀應二年正月十一日

(桃井義綱) 位 在判

得江石王殿

正月。能登の士得江石王丸代長野季光、同國に於ける軍忠を具申して桃井義綱の證判を求む。

【得江文書】

三八三

得江石王丸代長野彦五郎季光中軍忠事

一、去年觀應十月廿日於越中國(桃井義綱)凶徒打出、同廿三日貴來同國氷見湊之間、堀切石王丸一族等、所領志雄越山能州令警固、致度々合戰訖。

一、同十一月三日御敵井上布袋丸(後行)當來彦十郎以下、自當國能州富來院打出、寄來花見槻之間、馳向彼所致軍忠訖。

一、同四日凶徒等取陣同國飯田宿之間(飯田)、季光押寄彼在

所、致合戰忠節、追越御敵等於越中國訖。是等次第能州守護桃井兵部(義綱)大輔殿御代官矢野余五郎令見知訖。

一、同日四日兵部大輔殿、自京都當國能州御下向之間、屬被御手之處、同十九日御敵桃井兵庫助直信、率數千騎自越中令亂入能州、取陣高島宿、同十二月一日寄來石王丸等領内志雄保之間、季光不替身命致戰功、追歸凶徒等訖。

一、同十三日被賴龜兵部大輔殿金丸城之處、御敵等寄來之間、季光自城中打出、致合戰忠節、追歸凶徒等訖。

一、今年觀應正月廿一日、被差向里見彦七殿於羽田城之間、屬被御手、致合戰燒拂籠、至于同廿五日、毎日抽軍忠訖。

右如此致毎度戰功上者、且被經御注進、且賜御證判、爲備向後鑑鑑、言上如件。

觀應二年正月 日

(桃井義綱) 了 在判

(文中に羽田城といふものは越中なるが如しといへ

ども、未だその所在を知らず。

正月。某、鹿島郡能登島東方地頭天野遠政の所領に禁制を掲ぐ。

【天野文書】

三八四

制札

天野安藝三郎遠政當知行所領事

右甲乙人等不可致濫妨狼藉。於違犯之輩者可處重科之狀如件。

觀應二年正月 日

(不詳) 在 判

(この制札は能登守護桃井義綱の與へしものなるべく、天野遠政の所領は能登島東方なり。)

六月朔日。前加賀大介橋成秀、介二郎に、その所領能美郡多田八幡別宮領乃身莊の地を讓渡す。

【兩足院文書】 山城

三八五

讓渡 所領事

加賀國多田八幡別宮領乃身莊敷地事

細代辰(辰丸)一反卅代 彌六作一反 藤二郎作一反 場田五

反 後藤三作一反十五代 兵衛跡三反

宮東宮園 田島事 左近跡三反

彌五郎名三反卅代 同五郎二郎名三反十代 平五郎名

三反卅代 平二郎名三反 井田彌四郎名二反 藤太郎

跡一反

宮東島事

左近島 藤二島 孫二郎島土器田 加賀房島

右讓狀如件。

觀應二年六月一日

前加賀大介橋成秀 在判

介二郎殿

七月十七日。足利直義、能登の士得江石王丸にその本領を安堵せしむ。

【得江文書】

三八六

本知行地事、不可有相違之狀如件。

觀應二年七月十七日

(足利直義) 在 判

得江石王殿

七月廿四日。藤原朝房等、幕府の命を受け、天野